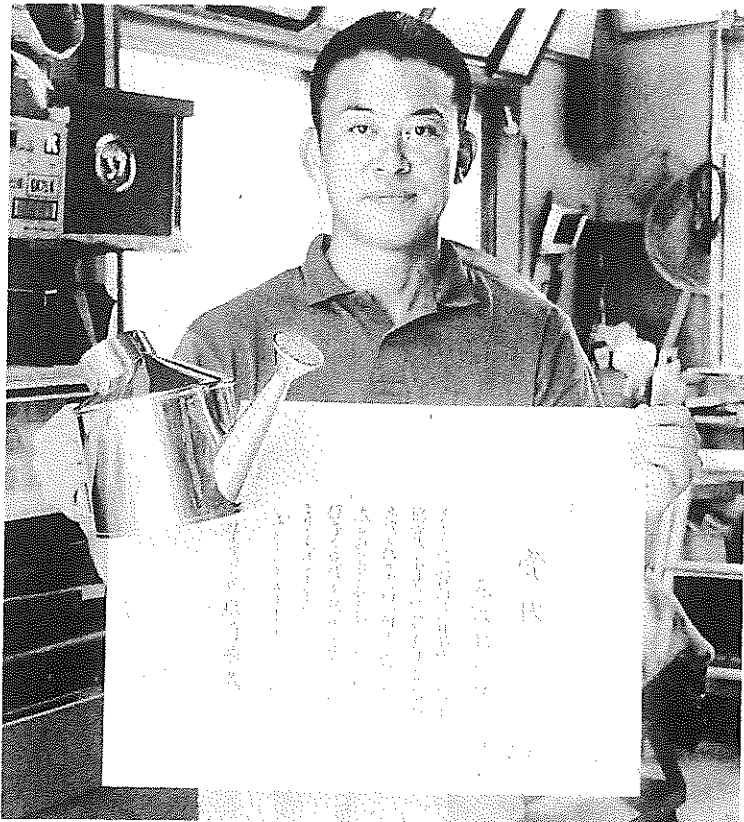


九州の出場者初



森永さん (長崎市) 日本一

日本一の板金加工職人を決める「全国建築板金競技大会」の技能競技部門で、長崎市の森永龍一さん(39)が優勝した。これまで2位が3回と悔しい思いをしてきたが、8回目の出場でようやく栄冠を勝ち取った。九州の出場者が優勝したのは初めて。

全国建築板金競技・技能部門

建築板金の技能継承と若手育成を目的に日本建築板金協会(東京)などが主催。38回目の今年は2月、静岡県富士宮市で開催された。制限時間内に課題作品を製図する「建築技術」、実物を作る「技能競技」の2部門で競った。49人が出場した技能競

▲板金加工職人「日本一」になった森永龍一さん

長崎市協岬町

「業界を元気にしたい」

技の課題は、銅板製じょうろ。森永さんは、取っ手を付ける際、本体の一部をへこませてしまったが、ハンマーなどを使っ てうまく修正。「制限時間ぎりぎりまで作品細部にこだわるのができた。経験がものをいった」と振り返った。

市内の高校を卒業後、板金加工の道へ。現在は実父が営む森永板金店で働き、屋根の工事や補修などを請け負っている。

森永さんによると、県内の板金業者数は高齢化で減少傾向にあり、次世代の担い手育成が課題。一方で、耐震性や防水性の高い板金屋根の需要は高まっており「若い世代に板金技術の魅力を伝え、業界を元気にしていきたい」と意気込んでいる。

(野崎英人)